

芭蕉、清風歴史資料館（鈴木弥兵衛家住宅）

芭蕉、清風歴史資料館は、有名な俳人・松尾芭蕉（1644～1694 年）と、この地域の裕福な商人だった鈴木清風（1651～1721 年）との長く続いた友情を記念したものです。芭蕉は、1689 年、江戸（現在の東京）から北部地方へと徒歩で旅した 156 日間の旅の一部として、尾花沢に清風を訪ねました。この旅は、詩と散文を集めた芭蕉の紀行「おくのほそ道」（北の奥地への狭い道）の題材となりました。

この資料館は、江戸時代（1603～1867 年）後期に建てられた酒商人のもので、清風宅そばの現在地に移築したものです。展示品には、清風にかかわる資料、芭蕉自身が書いた手紙、芭蕉の『奥の細道』の旅にかかわる尾花沢に関する資料などがあります。2 階では、道具や衣服、またその他遠い昔の尾花沢での厳しい冬の暮らしにかかわる遺物を展示しています。